巻頭特集

大阪府立 豊中高等学校

次世代リーダーを育むボランティア体験！

「大阪府立豊中高等学校」では、2年生全員が地域のボランティア活動を行っているという。
この独自の教育プログラムを経て、生徒達はどのような影響を受け、変化していくのか。
生徒、先生、それぞれの想いに迫った。

豊かな人間性を育てる「志学」〝豊高生〟として社会に関わる

夕暮れ時、「さようなら」と声をかけられた。正門を出ようと、ダンスをしている女子生徒たちの前を横切った時だ。何ともさわやかな気分になった。

『大阪府立豊中高等学校』（以下、『豊高』）には、礼儀正しい生徒が多い。訪問した時、最初に抱いた印象だ。同校は今日、さまざまな教育分野の先進校として、注目を集めている。中でも、「GLHS（グローバルリーダーズハイスクール）」として、「豊かな感性と幅広い教養を身に付け、社会に貢献する志を持つ、社会をリードする人材を育成すること」に力を注いでいる。

そんな『豊高』では、総合学習のカリキュラムの1つとして、高校2年次に実施する「ボランティア活動」がある。これは、大阪府が平成23年度より導入した教育プラン「志学」の一環だ。

生徒が地域の団体にボランティアとして参加し、地域の人々に貢献する。同校OBでもある平野裕一校長は「世界各国で活躍できるようなリーダーを育成していくことが目的にあります。そして、社会のために自分の能力を還元したり、貢献していくような志のあるリーダーになってほしいのです」と語る。

平野裕一 校長

毎朝の挨拶運動や部活動の応援など、積極的に生徒に接する平野校長。校長室の扉は「自由に入ってきてくれたら」と、いつも開かれているそうだ

生徒自ら動いて体験する。プログラムに込めた想い

このプログラムを担当している上林卓也先生は、「生徒には、ボランティア活動の訪問先を自分の足で探してほしいのです。今は与えられることが多い時代。でも〝グローバル〟に通用する人になる為には、自分で動くことが第一歩だと思っています」と言う。また、総合力や感性を育てるという面でも、ボランティア活動は役立っている。自分の行為が喜んでもらえていると実感を持てたり、人とコミュニケーションをとることが難しいとわかったり……。点数では表せない、教科書やインターネットでは得がたい経験だろう。

また、豊中市の市民公益活動を支援する『豊中市市民活動情報サロン』（以下、『情報サロン』）の協力も、生徒にとって社会と関わる1つの経験となっている。生徒が『情報サロン』に行き、希望日と興味のある分野を伝えると、ボランティア募集団体をいくつか紹介され、選ぶことができるのだ。『情報サロン』の横山佳代子さんは、「相談に来られて、お話しした時の、生徒さんのしっかりとした受け答えに、とても感心しました」と話す。

『情報サロン』を利用した生徒のボランティア活動を取材！

米粉や野菜を使ったお菓子作りに子どもたちと挑戦
ハンドボール部の6人で、ニックネームを名札に付けて参加したものの、子どもたちからは「先生」と呼ばれていた
遊びの時間ではすっかり仲良くなり、この様子♪

保育児童との交流！

訪問先 『NPO法人キッズ&子育て応援隊MerryTime』
内容 米粉を使ったお菓子作りを通して、8人の子どもたちと交流

先輩から聞き興味を持った、子どもとの交流

昨年、ハンドボール部の先輩がボランティア活動で幼稚園に行き"お仕付け役"をしたのだとか。「すごく楽しかった」という先輩の話を聞き、「子どもと関われる活動」を訪問先として探した

徐々に打ち解け、心を開いてくれた

最初は警戒していた子も「こちらから喋りかけていくうちに、一緒に遊んでくれるようになった」（下畠さん）。中には、ずっと手を繋いでくる子も。帰る時は名残惜しく、半日という短い時間だったが充実した交流だったそうだ

視野が広がり"やってみたい"が増えた

「将来、先生には絶対ならない」と思っていたという下畠さん。しかし、今回子どもたちと関わったことで「ちょっといいかなと思った」と話す。祖父母と普段会えないという横山さんは「今度はお年寄りとの交流などのボランティア体験ができたら、人生の経験になると思った」と、それぞれ視野が広がったようだ

取材に応じてくれたのは、横山さん（写真右）と下畠さん（写真右から3番目）。ハンドボール部のメンバーが二手に分かれて参加した

障がい者向けイベントに参加！

訪問先 『社会福祉法人 あさひ会』（『素のままフェスタ』に参加）
内容 障がい者と健常者が交流するイベント『素のままフェスタ』の裏方業務（荷物の運搬などの力仕事や出演者の立ち位置テープの貼り付けなど）

左から、淺田くん、北村くん、鳥越くん。鳥越くんは生物研究部に所属しており、小学生向け実験教室と2つのボランティア活動をしたという

障がい者の表現活動を応援する『素のままフェスタ』。障がい者と健常者がパフォーマンスを披露しあった。「ボランティア活動をしたことがなかったのですが、案外スッとやれるんだとわかり、参加した直後に献血にいきました！」（北村くん）。「障がいのある人と交流する機会があまりないので、関わり方を学ぶっていう意味でも参加して良かったです」（淺田くん）

ボランティアとして参加し、初めて知ったこと

今年4月に施行された『障害者差別解消法』。「ニュースになってなかった気がするけどな……。イベントで初めて知った」と北村くん。今回携わった「素のままフェスタ」は法律や障がい者に関する知識を広めるという目的のあるイベントだった。参加した彼等の意識にも変化が!

関わったみんなでつくる、一体感

パフォーマンスや司会も、障がい者と健常者が混ざってイベントを盛り上げていた。さらに裏方担当者だけでなく、出演者も裏方業務をする。"みんなでやろう"という雰囲気を感じたそうだ

イベントを通して見えた"理想の社会"

参加して、「"障がい者だから特別に優遇する・守る"という意識も一種の差別になりうるのかもしれない」と思ったという。守るのではなく、理解した上で普通に接して、一緒に生活をしていく。「もっとそういう考え方がいろんな人に浸透していけば良いなって思いました」（北村くん）

ダンス・歌で心通わす交流を！

事前の打ち合わせで、施設スタッフから「ダンスだけでなく、一緒に歌ったり、話したりという交流もしてみては」という提案があった。曲目もその時に相談し、一緒に歌えるものを選曲

歌いながら、初めての手話も体験！

歌ったのは「ふるさと」、「となりのトトロ」の「さんぽ」、「上を向いて歩こう」の3曲。「「さんぽ」では、施設の方が手話を教えてくださって、手話をしながら歌うのが楽しかった」（武田さん）

自分たちのダンスで相手が笑顔に

ダンス中は高齢者から手拍子が！ 激しいダンスもあり、高齢者の反応が不安だったが「"めっちゃすごいね"と言ってもらえた」（馬場さん）。「踊ることの楽しさを改めて感じた」（武田さん）

ダンス部の女子22名全員で、文化祭で発表したダンスを4曲披露。「今まで高齢の方の前で披露したことはありませんでしたが、もっと多くの場で発表する機会ができたらいいなと思いました」（馬場さん）。「今度は小さい子たちにダンスを教えて一緒に踊ってみたりしたいなと思いました」（武田さん）

介護施設でダンスを披露！

訪問先 『シルバーデイハウス寿』
内容 高齢者介護施設にて高齢者を観客に、ダンスを披露。さらに合唱&おしゃべりで交流

武田さん（写真左上）と馬場さん（写真右上）の2人が中心となり、準備を進めていったという

この経験が生徒の自信に！世界へ羽ばたくリーダーへ

平野校長は、このプログラムに確かな手応えを感じているという。ボランティア活動に参加した生徒の中には、普段接する機会のない世代や異なる環境の人々と交流し、新たな考えを持つに至った生徒がたくさんいる。また、「人の役に立つた」という経験が、生徒一人ひとりの自信にも繋がるのだ。実際に、参加団体からの喜びの声や便りが届いているそうだ。

〝グローカル〟という言葉がある。「グローバル」と「ローカル」を掛け合わせた造語だ。グローバルに海外へ出かけ、同時に地域にも根差す。「これからはそういう両面性を持ったリーダーが必要なのです。そして、ただお金を頂戴するだけではなく、誰かの役に立っているから、仕事に生きがいを見出す。このボランティア活動の経験が、そういうところに繋がっていけばいいなと思います」。OBとしての想いも大きいのだろう、平野校長の熱のこもった声が心に響いた。

豊高生による社会への積極的な関わりが、これからも地域を活気付けていくことだろう。無限の可能性を秘めた彼等、彼女等は、どんな大人になっていくのか。今後が楽しみだ。

取材協力

大阪府立豊中高等学校
豊中市上野西 2-5-12
TEL.06-6854-1207
http://www.toyonaka-shs.ed.jp/

文／海崎 緑　デザイン／小林亜由　写真／Ayami　写真提供／NPO法人キッズ&子育て応援隊MerryTime、社会福祉法人 あさひ会、シルバーデイハウス寿、とよなかま